

連載第23回 横浜市会議員 たけのうち猛 市民とともに

放射線教育と被災地理解を推進

原発避難いじめ防止へ

原発事故で福島県から自主避難した生徒が、転校先の小学校でいじめを受けていた問題について、問題発覚後の教育委員会への対応の不手際が度々指摘されるなど、全国的にも大きな注目を集めました。3月末に再発防止検討委員会により、校内での

支援体制や関係機関との連携など、一定の再発防止策が示されましたが、さらに公明党として、原発避難いじめ防止へ2つの課題を指摘しました。

Q.2つの課題とは？

A.一つは放射線に関する正しい理解の促進です。放射線は目に見えないものだけに、風評が一人歩きします。実際に「放射線がウイルスのように伝染する」という無理解から、

いじめに発展したケースもあります。私も放射線に関する調査研究、情報発信、教育啓発を行う福島県環境創造センターの視察を行いました。もう一つの課題は、被災者・被災地へ寄り添った理解啓発です。

線教育に関する教員研修の実施、被災地理解のための教育の充実を訴えました。それを受けて、リーダークラスの教員を対象としたセンターでの研修の実施、文科省作成の放射線教育の副読本と併せて、岩手県教育委員会発行の復興教育副読本等も教材として活用することが決定しました。

Q.いずれも大切な視点です

Q.とても有意義な成果です

評が一人歩きます。実際に「放射線がウイルスのように伝染する」という無理解から、

A.全国で共通する問題として、まずは国会で三浦信祐参院議員が取上げ、文科相より、教育・広報の強化、副読本の活用を進める考えが示されました。横浜市会でも公明党として、福島県環境創造セ

A.国会・地方議員が素早く連携して改善を促すという、公明党らしさが発揮された事例だと自負しています。子どもたちの教育環境の充実へ、引き続き一丸となって取組んで参ります。



横浜市会議員
たけのうち猛

<ご相談・ご連絡先>

公明党金沢支部事務所:

金沢区富岡西 3-38-1-101

TEL: 080-9804-9782

FAX: 045-345-4345

✉ info@takenouchi-

takeshi.com

http://www.takenouchi-

takeshi.com/

ンターを活用した放射

す。